

圏外のアンテナ

[赤の勝ち]の巻

先週の土曜日は、今年初のMLB「エンゼルス対ドジャース」。

「赤対青」のこの対戦、2021年の8月から足掛け3年、エンゼルスが10連敗を重ねていた。普段はスマホ派なのだが、このゲームだけは話が別だ！と、TVの前のソファにどっかと腰かける。

大谷翔平選手の古巣、エンゼルスのメンバーは、ほとんどみんな、知った顔。先発は、大谷とも仲のいいサンドバル。

試合は、けっこうな投手戦。大谷の2ランホームランなどがあり、2対2の同点で延長戦へ突入。10回表、シャニュエルの送りバントとウォードのヒットという「見事なスモールベースボール」で、エンゼルスが3対2と勝ち越し。クローザーのエステベスがきっちり抑えて、エンゼルス、今期初めて延長戦での勝利をモノにした！

そしてわたしは何を鼻息荒く、こんなに試合経過をレポートしているのか？

とにかく、うれしいのだ。大谷選手のドジャース移籍以来、エンゼルスの試合を日本語放送で見る機会が減った今、ガッツあふれるレンヒーホの盗塁、ネトの好守、オホッピーの矢のような送球に、はしゃぎまくりたい気分なのである。

このチーム、一昨年の夏は、どん底だった。連敗の数は、球団史上最悪の14。「ケガ人ばかり」「凡ミスの山」「投打が全く噛み合わない」などと批判を浴びながら、明日の見えないトンネルの中にいた。

実はその同じ時期、わたしも同じような状況にハマりこんでいた。

落としたお財布が戻ってこなかったことをきっかけに鬱を発症……。赤いユニフォームたちは、出口の見えないトンネルを一緒にさまよう仲間だったのである。

一方的な思い込みだが、どん底をともに経験したチームの勝利は、何よりのブラボー。

出口のないトンネルはない。きっと明日は晴れるから。

=2024年6月28日掲載=

